

## 保育計画成果報告書

法人名等	学校法人織田学園
施設名	おだ学園保育園
報告者（役職）	菊地 鈴香（研修担当）
住所・連絡先	東京都多摩市永山1-5 ベルブ永山209号
	☎ 042-357-8100 E-mail n10@odakids.com

○タイトル（保育計画）

積み木が重なる「あそびの森」

○主な助成備品

大型積み木、ビルディングロックス、ネフスピール、ソフト積み木他

### 1. 保育計画策定の目的

園の教育保育目標

- ・元気でたくましい子
- ・やさしく思いやりのある子
- ・意欲のある子
- ・感性豊かな子

保育理念～3つのたくましさを育てる～

- ★体のたくましさ
- ★心のたくましさ
- ★人とつながるたくましさ

この保育理念のもと、子どもの最善の利益を第一に考え、豊かな生活体験を通し自我の育ちを助長し、生きる力の基礎となる「心情」「意欲」「態度」を育てることに力を注いでいます。

心や体・手指・脳の発達等を考えた時に園庭のない狭い空間でも最大限に子ども達の達成感や満足のいく遊びを提供出来る教材として「積み木」が必要と考えました。

積み木の1つひとつが重なっていく場所から「あそび」が生まれ、数量や図形、高さや感覚、言葉による表現や伝え合い。光、色などの発見。それらからくる好奇心・気づき・協調・共感・達成感などの社会情動的スキルにまでつながっていくという思いから、今回の応募にいたしました。

## 2. 具体的な実施内容

### 0～1歳児クラス

やわらかいだんや組み換えステップを登って降りて気持ちいい！

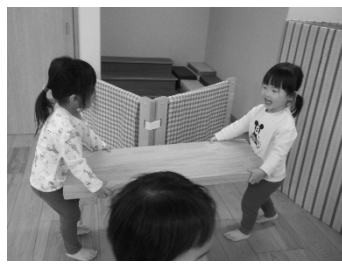
0歳児は体の体幹や腕、足が育つ環境をつくり、自らにハイハイが出来るようになると階段の上り下りを楽しむようになりました。1歳児になりつかまり立ちや伝い歩き、歩行などの動きがしっかりとしてくると、いろいろな場面で自分の意思で移動することが多くなり、階段もバランスを取りながら上手に歩くことを楽しんでいます。

転倒防止も考慮してやわらかいだんをよく使用していますが、こども達は安心して楽しむことが出来ていました。



### 2歳児クラス

2歳児になると、積み木の色や長さを合わせる事が楽しくなる姿が見えてきました。リグノやネフスピールを箱に片付ける過程で、色別に並べる事により、秩序正しく並べていく心理的、知的欲求が満たされるようになりました。積み木を高くつむ遊びでは、挑戦を楽しんだり、自分の目標を達成した時の達成感を得ることも出来てきました。また大型積み木遊びでは重いものや長いものなど、1人では運べない時は友達と協力し運ぶ姿も見えてきたり、たくさん積んで大きな船に見立ててみんなでイメージを共有する遊びも芽生えてきました。



ドミノと同じ色の人形積み木を置く(2歳)

### 3, 4, 5 歳児幼児クラス

幼児になってくると、自分達のイメージを話し合い共有したものを、友達と協力しながら作っていく姿が見えてきました。ハッキリとした目標を持って積み木を組み立て、友達と物語を作りながら形にしていきます。自分達で役割を作ったり、バランスを取ったりしながら高く積み上げて出来るようになってきました。



### カプラを使って重なる空間(幼児)



### 大型積み木の滑り台(幼児)



### マットと合わせて空間作り(幼児)

いろんな積み木の特徴を観察しながら探求心旺盛に毎日遊んでいました。



### 3. その成果と評価

開園当初は雨の日、夏の暑い日等、外に出られずエネルギーを余らせてる子ども達にどんな環境を設定してあげられるのか毎日毎日頭を悩ませながら、試行錯誤していましたが、子どもの発達にあった学年別の積み木を助成金で用意出来たことにより、0, 1, 2歳の子どもの指先の動きを促し、積み木の「色」「形」などから視覚的遊びにも興味を持って、その年齢なりの発達が見られるようになりました。また3, 4, 5歳児は大型積み木などを使用することにより、室内でより大胆に体を動かし、友達と関わりながら遊ぶことが増え、考える力や、共感し表現する力を育むことが出来るようになってきたと思います。

異年齢での活動も「積み木」を使うことによって、発想の広がりが出てくるようになってきました。みんなで「積む」ことにより年齢の差を超えたつながりが出来るようになりました。大きな子どもが小さな子どもを助けたり、頼られたりし、それぞれの年齢の子どもが「自分で考え選んで表現する」ようになってきています。子どもの「これなあに？」「やりたい」「いっしょに！」という思いを叶えるための玩具として『積み木』を活用させてもらうことができ、本当に良かったと思います。

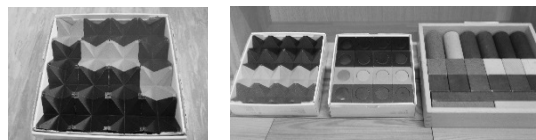
### 4. 今後の課題と展望

積み木遊びを始めてこども達は、見えない重なりを考えることが出来るようになってきました。子どもが見た方向からは1つに重なって見える積み木も別な角度から見ると2つになるといったように、見えたものの捉え方の経験を積んでいます。このような経験を積んでいくのも積み木遊びがもたらす学びですが、たくさんの「積み木」が園に届き、こども達も保育者も大喜びの中、新たな今後の課題が見えてきました。

課題：【狭い園の中でより有効にその積み木の効力を利かせるために片付け方を工夫する】です。

この解決方法としては➡大型積み木は同じ大きさ、同じ形のものを前後に並べることで探している積み木が出しやすくなり、場所の節約・効率化になる。という事になりました。またリグノやネフスピールなどの色の鮮やかな積み木は色を揃えて並べて片付けることにより、数が足りない、積み木が無くなった等のトラブルも一目で分かり整理しやすくなります。色が揃っていることで遊び出す時もイメージが付きやすく、遊び始めやすくなっています。このことは日常に習慣化したい事となり、今子どもと一緒に大人も取り組んでいるところです。

どの学年でもその発達に合う遊びがあり、こどもの「やりたい！」「遊びたい！」をどんな方向からでもカバーできる積み木の経験をこれからも大切にしていきたいと思っています。



以上